



文学部人文学科

言語学専修課程 紹介パンフレット

2019 年度 A セメスター

The University of Tokyo

Department of Linguistics

uistics Linguistics *Linguistics* Ling

stics **Linguistics** Lingu

nguistics Linguist

Linguistics

目次

2 目次

3 はじめに

言語学研究室について

4 言語学研究室の先生たち

6 言語学研究室 今年度の時間割

7 ある学生の時間割

8 主な講義の紹介

音声学

比較言語学

認知文法入門

統語論に関する諸問題

言語類型論研究 —— 自他交替

日本語との対話

総合科目「世界の言語と言語類型論入門」

過去に開講された授業

15 卒論と進路

はじめに

言語学を勉強していると、しばしば他学部の友人から妙に気を遣われます。「この文章表現、言語学的に正しいよね!?!」「この単語ってどう発音するのが合ってるの?」。間違えると責められたりします。「言語学を勉強しててそれかよ!!」。でも、言語学ってそういう学問じゃないんです(四字熟語は辞書に訊いてくれ!)。言語学は「ことばの科学」、つまり人間の言語活動に関わるあらゆる事柄を扱う学問。最終ページの卒論テーマ集を見ていただければ、それが分かってもらえると思います。

この冊子を通して、少しでも言語学のこと・私たちの研究室のことを知っていただければと思います。

言語学研究室について

言語学研究室は本郷キャンパス・文学部 3 号館の 6 階にあります。壁には様々な辞書や論文集がズラリ。パソコンやプリンタも使用できます。

同じ建物には英文や仏文、西洋古典学などの研究室がまとまっていて、ほかの研究室の講義に出るのにも便利な好立地。文学部図書室も同じ建物の地下にあり、必要な資料も思い立ったらすぐに取りにいきます。



言語学研究室の一角である「学生室」は学生たちの憩いの場。一緒にお昼を食べたり、研究に関わる作業をしたり、発表の打ち合わせをしたり、勉強したり。調査で世界中を飛び回っている先生や学生も多く、机の上には常に世界各国の珍しいお菓子が! コーヒーメーカーもありますよ。マグカップ持参推奨。

言語学研究室の先生たち（☆は必修科目）

西村義樹 教授

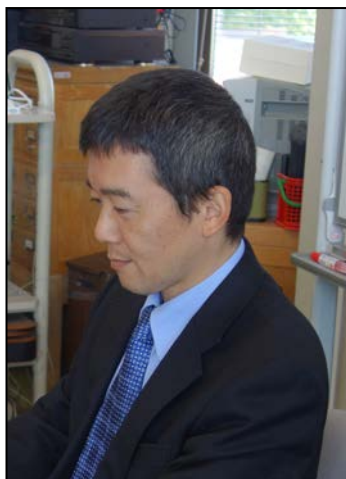
専門は認知言語学。近年は比喻と文法現象との関わりに特に関心を持っています。

担当科目 ☆言語学概論 / 認知文法入門 / 認知文法研究 / 言語学次世代育成演習

無類のカレー好きであり、学生たちも目を見張る健脚を誇ります。飛行機が嫌いなため可能な限り陸路を選択されるそうです。



小林正人 准教授



専門はインド語学および音韻論。古い文献や口承の物語をもとに、文法や音韻がどのように変化してきたかを研究しています。

担当科目 ☆言語学概論 / ☆比較言語学 / 音韻論 / 印欧語比較研究 インド・アーリア語 / 言語研究のための情報処理 (Python) / 言語学次世代育成演習

穏やかで面倒見のいい研究室のお父さんの存在です。インドカレーとナンを片手で現地人並みに上手に食べることができます。

梅谷博之 専任講師

専門はモンゴル語。「語と接辞はどうやって区別するのか」「品詞分類はどのように行なうべきか」といった言語学の基本的な問題にも関心があります。

担当科目 ☆言語学概論 / ☆音声学 / モンゴル語研究 / 統語論に関する諸問題 / 調音音声学中級 / 言語学次世代育成演習

世界一寒い首都と言われるウランバートルで凍死しかけたことがあるそうです。モンゴルでは21世紀になってカレーの存在が広く知られるようになりました。



長屋尚典 准教授



専門はフィリピンやインドネシアのオーストロネシア語族と言語類型論。現地でのフィールド調査に基づいて世界の言語の普遍性と多様性のあり方について考えています。

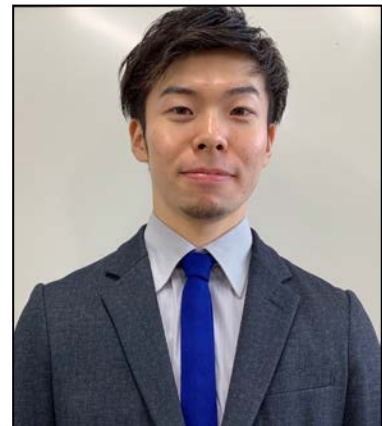
担当科目 ☆言語学概論 / 言語類型論研究 /
フィールド言語学 /
言語学次世代育成演習

フィリピンには **kare-kare** という「カレーのまがい物」という料理があります。重複でにせものを表現するのがカッコいいですね。

石塚政行 助教

専門はバスク語（フランスとスペインで話されている非印欧語族の言語）。様々な文法現象について、バスク語固有の特徴とは何なのか、他の言語との共通点・相違点はどこにあるのかという関心から研究しています。

師匠である西村先生おすすめのカレー屋さんの味の区別がつかず、デリーもバーモントも同じだと主張する不肖の弟子です。



言語学研究室 今年度の時間割（学部生向け科目）

	月	火	水	木	金
1				☆比較言語学 (1)(2*)	
2	ヒンディー語 (1)(2)	日本語との対話 (1)(2) ^特	☆言語学概論 [A]*	言語学次世代 育成演習[S] ^演 ☆言語学概論 [A]* アルタイ型言語 と言語類型論 [A] ^特	音韻論[S] ^演 印欧語比較研究 インド・アーリ ア語[A] ^演 ペルシア語 (1)(2)
3	モンゴル語研究 [S] ^特 統語論に関する 諸問題[A] ^特	言語類型論研究 (1)(2) ^特	フィールド 言語学(1)(2) ^演	☆音声学(1)(2*)	言語研究のため の情報処理 [A] ^特
4	調音音声学中級 (1)(2) ^演	認知文法入門 (1*)(2*) ^特			バスク語研究 [A] ^特
5	琉球語アクセント 研究の諸問題 [A] ^特	認知文法研究 (1)(2) ^演 エジプト語と 文字論[A] ^特	日本手話 (1)(2) ^{特認}		メンタルスペ ースと認知言 語学[S] ^特

（言語学研究室担当の外国語科目も記載しています。）

- ☆は必修科目です。*は持ち出し専門科目です。
- 講義名の後の[S]・[A]は開講時期を表し、それぞれ S セメスター・A セメスターを意味します。また、(1)(2)と書いてあるものは、(1)は S セメスターに、(2)は A セメスターに開講されます。
- 「特」＝「特殊講義」、「演」＝「演習」、「特認」＝「特殊講義として認定される」です。

もちろん、他の研究室や他学部の科目を受講することもできます。時間割をうまく調整すれば、駒場キャンパスの講義を受けることもできます。

ある学生の時間割

ある3年生の先輩（19年4月進学）の2019年度Aセメスターの時間割です。

	月	火	水	木	金
1				比較言語学(1)	
2				アルタイ型言語 と言語類型論	印欧語比較研究 インド・アーリア語
3	統語論に関する 諸問題	言語類型論研究	フィールド 言語学(2)	ロシア語中級	言語研究のための 情報処理
4	調音音声学中級	認知文法入門	ロシア語初級		バスク語研究
5			日本手話(2)		

水色のコマは言語学専修課程の科目です。

大半の学生が駒場にいるうちに必修の音声学と言語学概論を履修しています。

このように、言語学専修課程で開講される「特殊講義」・「演習」を取りながら語学の授業や自分の興味のある分野も履修していくこともできます。

時間割の組み方次第で、休日を作ったり、駒場などの他学部の講義を履修したりすることもできますし、教員免許や学芸員資格の取得を目指している先輩もいます。

主な講義の紹介

音声学（S・A 年 2 回開講,開講時期変更の可能性あります）

英和辞書でおなじみの発音記号。あの記号で巻き舌や舌打ちも表せることをご存知ですか？ 国際音声字母（IPA: International Phonetic Alphabets）と呼ばれるあの記号を使えば、世界中のいろいろな言語音を記述することができるのです。たとえ文字のない言語だとしても。

この講義では、言語の観察に不可欠な IPA を使いこなせるように訓練します。一人ひとりの発音をしっかりチェックしてくれるから授業中のフォローはばっちり。TA の先輩方も練習を見てくれます。半年後には世界中の言語音が発音できるようになります。洋楽がかっこよく歌えるようになるかも。

評価はセメスターの終わりに発音の試験と聞き取り・筆記の試験を合わせて行なわれます。試験前の学生室からは発音練習をする学生の発する怪しい声が…

THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET

CONSONANTS (PULMONIC)

	Bilabial	Labiodental	Dental	Alveolar	Postalveolar	Retroflex	Palatal	
Plosive	p b			t d				
	m	ɱ		n		ɳ	ç ʝ	k
Flap	ɸ β			r			ɲ	
Fricative		f v	θ ð	s z	ʃ ʒ	ʂ ʐ		
Approximant				ɻ			ç ʝ	x ɣ
Lateral approximant		ɸ β		l			j	ɰ
		u		ɭ			ɰ	ɮ

Where symbols appear in pairs, the one to the right represents a voiced consonant. Shaded areas denote articulation.

CONSONANTS (NON-PULMONIC)

Clicks	Voiced implosives	Ejectives
ʘ ɔ	ɓ ɗ	ʼ
ǀ ǁ	ɠ ɡ	ɛ
ǃ ǂ		

VOWELS

	Front	Central	Back
Close	i e	ɨ ɜ	u o
Open	æ ɶ	ɐ	ɔ ɤ

比較言語学 (S・A 通年)

駒場でドイツ語をやっている人、英語と意味や綴りが似ている単語がたまにありませんか？たとえば「父」*father* はドイツ語では *Vater*。また、スペイン語とイタリア語をやっていて、「1」がどちらの言語でも *uno* で「あれっ？」と思ったことのある人もいるかもしれません。これはご存じの通り、これらの言語が共通のルーツから分岐して生まれたから。言語の姿（発音、意味、文法規則 etc.）は時代と共にどんどん変化し、ひとつの言語がいくつにも枝分かれし、お互いに語彙を貸し借りしたり影響を及ぼし合ったりして、いま世界にある無数の言語が生まれてきました。その歴史を紐解くのがこの分野です。

教科書は英語。キャー！！でも慣れます。授業は、担当箇所を読んで発表し、それをもとに質疑応答する演習形式です。専門用語や練習問題で最初は苦勞しますが、すぐに慣れちゃいます。

評価方法は発表とレポート。きちんと出て内容を理解できていれば大丈夫。

Portuguese	French	(Latin)
côr /kor/	couleur /kulœr/	colore
correr /korer/	courir /kuri(r)/	currere
costar /kostar/	coûter /kuter/	co(n)stare ['stand firm']
cura /kura/	cure /kyr/	cûra ['care']

...ns of Table 5.3, we set up a sound correspondence in these forms:

...pendence 6:

...anish k : Portuguese k : French k

...RESPONDENCE 6, since all the languages ha

...1 naturally reconstruct *k. However, so

...SOUND CORRESPONDENCE

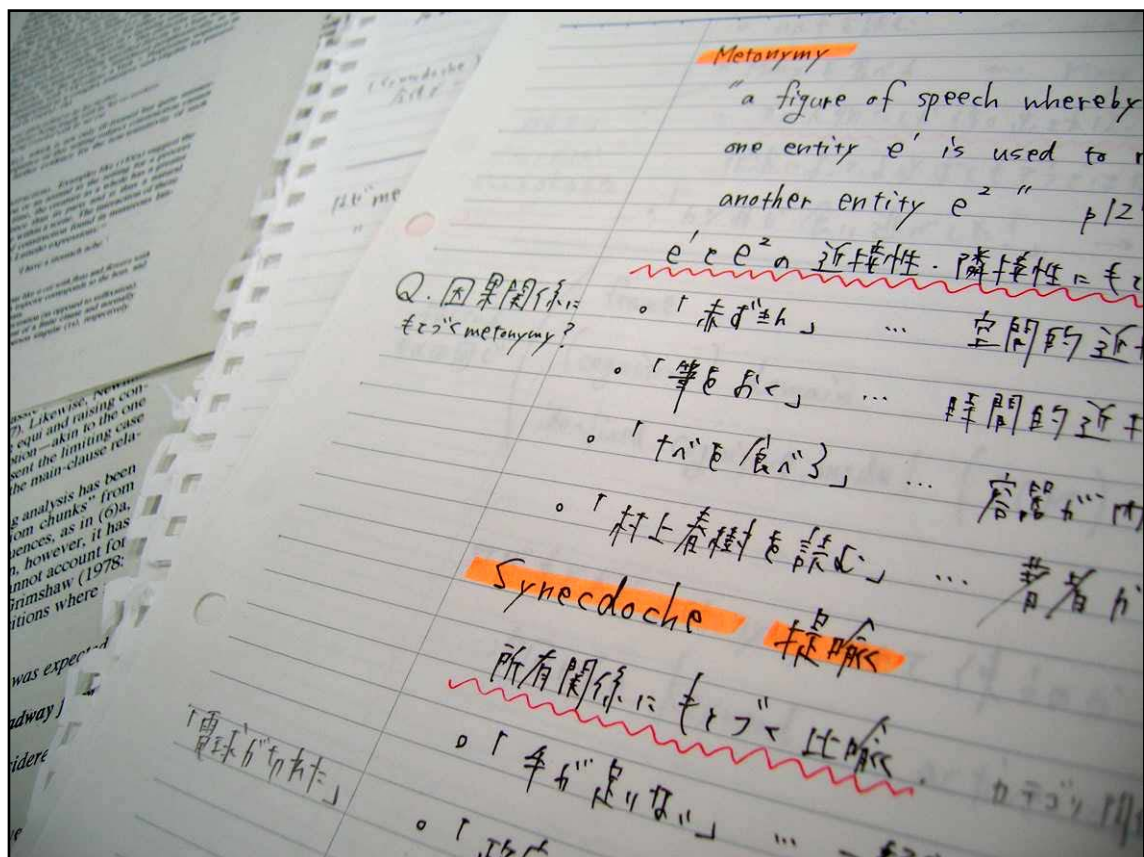
...tected *k,

認知文法入門 (S・A 通年)

認知文法という分野で最も重要なトピックのひとつが、比喻表現です。比喻なんて、文学作品でしか使われない、とっても詩的なものだと思っている人も多いかもしれませんが、実はそんなことはありません！！たとえば冬になると「鍋を食べる」。でも鍋自体を食べるわけじゃありませんよね？「空気を読む」って言っても、「空気」がどこかに書いてあるわけじゃないですよね？小説を読むのが好きな人、「村上春樹を読んだ」ことはありますか？でも村上春樹っていう人間に文字が書いてあるわけじゃないですよね？こういう日常的に使う「ちょっとズレた表現」が、認知文法という分野にとっては新たな発見の宝庫なのです。

基本的には認知文法の理論に関する論文などを読み進めたり、それについて議論したりします。

評価は学期末のレポートによります。



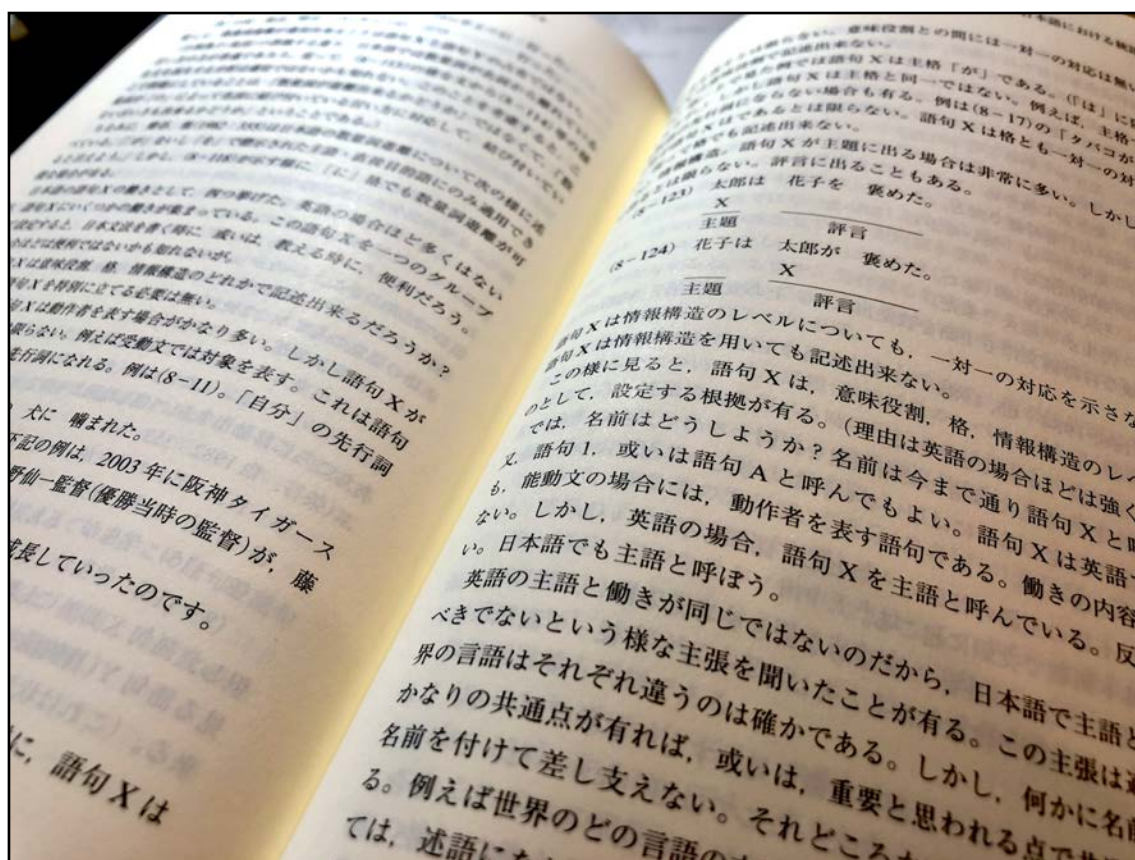
統語論に関する諸問題 (A)

英語文法を初めて勉強したとき、もしくは学校で日本語文法を改めて教わったとき、当たり前のように「主語」という概念が導入されませんでしたか？ その定義の曖昧さにもかかわらず、多くの人は特に疑問を抱かなかったと思います。

しかし、よくよく考えてみるとこの「主語」というものは実体が判然としません。果たして日本語におけるそれと英語におけるそれは同じ「主語」と言えるのか？ 通言語的な定義は可能なのか？ 言語学者間でも一致した意見は未だありません。

講義の内容は「主語」のみにとどまらず、ヴォイス(態)、節連結など統語論上の問題を取り上げ、関連論文を読み進めながら生じた質問について議論を交わしたりします。

評価はレポート。「当然」のバイアスに隠された物事を見つめ直しましょう！



言語類型論研究 —— 自他交替 (A)

英語の open は自動詞・他動詞ともに同じ形をしている (I open the door と The door opens) が、対応する日本語では動詞の形は異なっている (「私はドアを開ける」と「ドアが開く」)。また、日本語の「ドアを押し開ける」と「ドアを開ける」に対応する日本手話の表現は、いずれも「ドアを押し開ける」である。日本手話では、「押し開ける」という形式が「押し開ける」と「開ける」という二つの意味を担っており、日本語では明確に区別される意味が、日本手話では単一の形式に収斂するのである。

世界の言語を広く観察すると、言語間で (共通点はもちろんのこと) 様々な相違点があることに気づかされる。この授業では、特定の言語現象 (事象構造、自他交替、構文交替、使役、受け身、重複、反復…) を取り上げ、それらを分析することを通して、言語の多様な姿を見ていく。

授業では、学生が自らの専門言語に関して発表を行う。先輩方の発表を聞くことで、生涯を共にする言語に出会えるかもしれない。

2019. 10. 23 自他対応調査.

○ → ○ → ○ →

① boil
• 湯 水く
↑
湯 ok 水x

• 水 入水子 水まる (おなずき) 火 火かけ (おなずき) 水く.

② freeze
• 水 水かたまる.

③ dry

スルとスルA同にうたずき
語A的 aspect とおなじ

とやあさずき... = ...

日本語との対話（S・A 通年）

私たちは、普段日本語を自然に使っています。しかし、そんな馴染みの深い日本語も改めてきちんと見つめ直すと、様々な気付きがあります。

例えば、「子どもは試合に負けるとがっかりする。」と「子どもが試合に負けるとがっかりする。」という二文。直感的にこの二文の違いを感じ取ることは容易ですが、その違いを言葉で説明しようとしてみると案外難しいものです。

この講義では、こういった「は」と「が」の機能の差などの日本語の言語現象について、言葉の魅力・難しさ・奥深さを実感するべく、観察や分析を行っていきます。また、授業内容は、柔軟に、学生の興味や要望にある程度合わせてもらえます。

評価方法は期末レポート、出席、授業参加及び貢献度です。

総合科目「世界の言語と言語類型論入門」

（駒場にて開講。2019 年度 S セメスター。担当：長屋 梅谷 小林）

世界には 6000 から 7000 ほどの言語が存在すると言われるが、これらの言語はどのように同じでどのように異なるのだろうか。この問いに取り組む言語学の分野を言語類型論と呼ぶが、この授業ではその言語類型論という学問体系の導入をおこなう。

言語類型論の基礎を学ぶとともに、それがそれぞれの言語でどのように現れるのかを具体的なデータに基づいて考えていく。そこでは言語類型論的研究に還元され得ない、個別言語の特殊性も議論されることになるだろう。

過去に開講された授業

日本語方言アクセント論 エジプト語 シダーマ語 文法変化の諸相
言語と社会 言語類型論 伝統文法の言語論 コーパス言語学入門
日中対照言語学 印欧語比較研究（古アイルランド語 ヴェーダ語
古典アルメニア語 ヒッタイト語） 社会言語学 談話分析 など



言語学研究室の大部分の講義が行われる演習室。三四郎池を見下ろす窓からの眺めは最高！
天気のいい日は（相当悪くても？）東京スカイツリーが見えます。

卒論・進路

就職するか、大学院に進むか。言語学研究室はどちらの選択肢もアリです！

卒論

毎年様々なテーマが扱われています。

過去のテーマ例

- 語頭の喉音によるリグ・ヴェーダの韻律復元
- アイヌ語沙流方言における所属形普通名詞の形式と機能
- 東京出身者の母音の変化について
- ケチュア語アヤクーチョ方言における関係節の用法
- 北海道方言 *-rasar* の意味分析ー認知文法の視点からー
- コンピューターによるアクセント規則の検証
- ヒットイト語の使役接辞 *-nu-* の機能と通時的変化
- 古典ナワトル語における *particle in* の分布と機能
- ハンガリー語における *-vA* 分詞の受動的意味について
- トルコ語の非人称受身における属性叙述の影響
- ベトナム語の受け身マーカー *được/bị* の機能
- 日本語のツイートにおけるフィラー

- 青森市津軽方言の推量形式「ビョン」
- 福井平野北部・東部地域のアクセント分布
- 日本手話一音声言語と通じる態一

卒論ゼミはありませんが、全教員が参加する次世代育成演習があり、4年生はそこで相談したり指導を受けたりしながら自由にテーマを決めることができます。4年生の7月上旬にテーマ発表会を行います。年明けに提出し、2月上旬に口述試験があります。

進路

毎年進学する人と就職する人が半々ぐらいいます。大学院は東大がほとんどですが、他大学の大学院に進学する人もいます。

就職先については、商社・メーカー・広告・出版・不動産・IT・銀行・旅行会社・番組製作・公務員・お笑い芸人・漫画家など様々な業界に進んだ先輩たちがいます。

就活をする場合、大学院の入試は夏と冬の2回あるので、進学を迷っている人は就活しながら考えることも可能です。

大学院に入ると、学会発表など、研究室外での活動が増えます。学部比べて授業のコマ数が減り、その分自分の研究に打ち込むことができます。



Linguist <h

文学部言語学研究室

本郷キャンパス 文学部3号館 6階

開室時間：10:00～13:10, 14:10～17:00

ホームページ：<http://www.gengo.l.u-tokyo.ac.jp/>